



附属小学校だより

平成29年11月発行

創校140周年記念式典・音楽会を終えて

11月17日（金）、本年度の大きな学校行事の一つでもあった創校記念式典・音楽会を県民会館で行いました。大勢の来賓、保護者の皆様には、ご多用の中、足を運んでいただきまして、ありがとうございました。無事終わることができ、ほっとしています。4月のふたば会総会の転入教員の自己紹介でも申しましたが、私は附属小学校の創校記念式典がこれで3回目になります。平成9年の創校120周年のときは、6年生の担任として、子供たちや他の教員と一緒に劇を演じました。平成19年の創校130周年のときは、校内教頭として、副校長先生の指示の下、裏方に徹していました。記念式典に縁のある私は幸せ者だなと思います。



さて、今回の創校140周年は、いかがでしたでしょうか。子供たちも教員も、当日に向けて精一杯取り組んできました。時間の経過とともに振り返ってみます。

○創校記念式典

ブザーとともに緞帳が上がり、厳かな雰囲気の中、創校記念式典の始まりです。それまでリラックスしていた子供たちも、姿勢を正し、気を引き締めているのが、ステージの上からも分かりました。こういう「けじめ」が大切です。

遠藤学長は、子供たちに3つのことをお願いされました。①本をよく読みましょう。②よく遊びましょう。（特に、外で）③お父さん・お母さん・先生・友達に「ありがとう」を言いましょう。（一日に何回言えるかな）と。林同窓会長は、ご本人が小学生だった頃を振り返り、現在とは校歌が違っていたこと、一緒に附属小学校で学んだ同級生とは今でも深い交流があり、友達は大切であること等をお話しされました。

林同窓会長から記念品の目録をいただいた後の中陣さんの謝辞、寛さんの児童代表の言葉はたいへん立派でした。堂々とした態度で、表現力豊かに話す姿には、会場の皆様も「さすが附属の子」と思われたに違いありません。

○劇「附属・歴史・発見！～附属小学校140年の歩み～」

今だから言いますが、副校長として、年度初め、本校の教員に「創校記念式典で劇をやってほしい」と伝えるのが心苦しかったです。「ただでさえ忙しいのに、こんな



ことできません！」と内心、思っているだろう。子供たちも「え～、面倒くさい。練習で休み時間が無くなるのは嫌だな」と言わないか。役者は集まるのだろうか。と心配だったというのが本音です。しかし、教員も子供たちも劇の成功に向けて、前向きに努力してくれました。これが私には何よりうれしかったです。

本番では、ところどころに笑いが起こる、そして、附属小学校のこれまでの歴史が分かる劇に仕上がっていたと思います。劇に携わった教員や子供たちに感謝です。劇のフィナーレで、役者が全員ステージ上に集まり、こぶしを上げて「ヤー」と叫ぶ場面は、3日前の県民会館でのリハーサルの際に、子供の発案で決まったことです。今、問われている「主体的」という言葉に当てはまる子供の姿であったと思います。

○創校記念音楽会

夏休み明けから、各学級の担任と音楽担当、そして、子供たちが一丸となって取り組んできた曲を披露しました。風邪の流行で万全でない学級もありましたが、心一つにして、練習の成果を表現していたと思います。

毎年のことながら、この日に至るまでに、各学級では様々な「もめごと」があったに違いありません。学級紹介の言葉や指揮者・伴奏者等の役割を誰にするか、ある子はもっと練習したいのに、ある子は遊びたいなど、……。それぞれの子供の主張がある中で、折衷案を見いだして、学級が一丸となっていく。そんな裏話がどこの学級にもあったものと思います。



昔と変わらず、担任がステージに上がっていく子供たちに握手しながら声をかける場面、ステージから降りてくる子供たちとハイタッチする場面が見られました。当日、見守ることしかできない担任には、この日に至るまでの出来事を思い出され、込み上げる感動もひとしおだったことと思います。

○最後に

私は10年ぶりに創校記念音楽会に参加しました。何回も見てきた創校記念音楽会でしたが、副校長という立場では初めての創校記念音楽会でした。当日の仕事は、意外にも少なく、来賓と一緒に座っていてもよかったのですが、何だか落ち着かなくて、ずっと舞台袖にいました。

私の前を、忙しく子供たちや教員が動いていきます。「ああ、緊張する」と言いながら台詞を口ずさむ子供。「やった！終わった」と言って会心の笑みを漏らす子供。うまくいかなかったのか涙する子供。「そんなことないよ」と慰める子供。そんな子供を見て、冗談を言って和ませたり感動を共有したりする教員たち。たいへんよい姿をたくさん見ることができました。

閉会の挨拶で言いましたが、附属小学校は今後150周年、160周年、そして、200周年と歩みを進めていきます。子供たちが歩いていく道は何が起こるか分からない不透明な時代です。こんな時代を仲間と協働し、多少のことにはへこたれない逞しい人に成長するように、私たちは教育していく所存です。そのためにも、今後ますますのご理解とご協力をお願いします。

体育館の演台校章と花台をありがとうございました

ふたば会と同窓会のご支援で、体育館演台の校章と花台を新調していただきました。併せて、ピカピカに修復していただきました。ありがとうございました。大事に使わせていただきます。

(副校長 曲 師 政 隆)

